

市民と議会との語る会 実施報告書

日時	令和 3年 6月3日(木) PM 1:30 ~ PM 3:00	
会場	越前市役所 第3委員会室	
要旨	国際交流協会と総務委員会との意見交換	
出席議員	小形善信、加藤吉則、片粕正二郎、城戸茂夫、近藤光広、砂田竜一(敬称略)	
参加者	越前市国際交流協会 9名	
司会・記録係	司会	小形善信
	記録係	近藤光広・砂田竜一
協議事項	<p>1部【事業概要説明】</p> <p>越前市国際交流協会から、事業概要について、説明を受ける。</p> <p>協会:40代の若いメンバーも入り協会の皆さんにはしっかり仕事をしていただいている。市より支援金をいただきボランティアとして慈善事業を行ってきたが発足より30年が経ちここ最近では外国人が大幅に増えた。国際交流の意味合いも変わってきているため協会の名称含め事業の見直しが必要だと感じている。事業の費用もここ2、3年で3倍に増えその分仕事をしないといけないという気持ちだが新型コロナウイルス感染拡大以降事業が出来ない状況になっている。新型コロナウイルスが収まらないことには事業展開に限界を感じるが日本語教室を増やすなど今後も市とタイアップして頑張りたい。</p> <p>5月1日現在の外国人数は5165人と市の人口の6.28%を占めており、その内、日系ブラジル人は本市在住外国人の74.52%を占めている。日系3世までの方が、日本に定住しようと家族全員で移住してくるケースが多く、特定の地区に偏って在住していることも特徴である。また、若い年齢層の外国人が多いことも特徴であり、本市の25~35歳の年齢層のうち5人に1人が外国人という状況にある。そのため、外国籍児童の教育や地域の方との繋がりが課題となっている。一昨年に策定した多文化共生プランの66施策中、25の施策が国際交流協会に係っており、組織力アップ検討委員会を立ち上げるなど新規事業にも取り組んでいる。</p>	

## 2部【意見交換・質疑応答】

### 【意見】

協会：日本語教室のボランティアを行っている。子ども夏休み宿題サポートのボランティアが子どもたちの勉強を見ているが、日本語を読んで質問を理解し、答えを導いていくということが子どもたちにとってとても大変だと感じている。特に国語、社会の教科になると、子どもが教科書のどこに答えが書いてあるのかわからない状況である。小学生なら何とかなくても中学生からでは日本語を覚えるのがとても大変であり、最近、外国人が増えたためボランティア現場では限界を感じている。外国人が日本語をもっと理解できるような、質の高い日本語基礎学習の場所があるといいと思う。

### 【質問】

- Q. 協会：外国人参加イベントとして盆踊りやブラジルフェスに参加しているが、新型コロナウイルスの影響で開催できていない状況である。イベント開催の決定や中止の連絡を早くして欲しい。今年度の開催についてはどうか？
- A. 事務局：現在検討中であり、実施の有無は実行委員会で決定されるのとことである。
- Q. 委員：町内から聞く課題として言葉の壁があり、イベント日程変更等の連絡が難しいことがある。また、入れ墨をいれている外国人の方が多く年配の方にはアレルギーを感じる方がいる。協会として外国人差別を感じることはあるか？
- A. 協会：外国人に関し、協会への苦情はない。町内によって対応しきれないケースがあるのは把握しており、翻訳の依頼はかなりの数がある。翻訳の支援について周知は出来ているものと考えている。
- Q. 委員：提供する側からの一方的な事業になっていないか気になる。外国人からの意見を教えて欲しい。
- A. 協会：学校の問題だけではなく、高校進学、病院での通訳、葬儀、不動産など多岐に渡っての問題を聞いている。ポルトガル語を話せない子供もおり、ブラジルに帰るための語学支援も必要。また、勤め先の幅が狭く、大人数の外国人を雇っている事業所が急に無くなれば多くの外国人が路頭に迷ってしまう。外国人の声をもっと聴けるような取り組みについて議会でも取り上げて欲しい。
- A. 協会：外国人労働者にはシフト制で働く方が多く、土日が仕事の場合もあり交

流したくても出来ない外国人もいる。片言でも意思疎通は出来るため、積極的に交流してほしいと思う。入れ墨の話題が上がったが、そういう文化だと理解してほしいと思う。

**【意見】**

委員：偶然にも総務委員会には西地区議員が3人いる事もあり、ブラジル人の方の課題についてはこれまでも助言させてもらっている。また、国際交流や多文化共生については越前市がリーダーとなれる政策が必要だと考えている。せっかく家を建て定住しても回覧板を飛ばされたりタバコのポイ捨てを疑われたりするなど差別されやすい傾向を感じる。今後議会でも課題解消について取り上げたい。

委員：私は味真野地区に住んでいるが大虫地区や西地区以外でも外国の方を多く見かける。言葉の壁が大きな高い壁だを感じるため、今後も行政支援について勉強していきたい。命の問題として医療との連絡体制に心配があるため、しっかりと現状を認識しながら政策提言をしていきたい。

委員：外国人の方に期待する事として一にも二にも日本語を話せるようになって欲しい。高い壁を超えないと高校に進学できない、漢字もわからないでは日本で生きていくには厳しいと思う。以前サンフランシスコに訪問した際、一つの都市の中でもチャイナタウンや中南米街などが点在しており、外国人同士の交流はない状況であった。中央公園にいた外国人の若者に話しかけたことがあるが日本語が話せなかった。まずは日本語を習得していただく事が大事。これまでも再度勉強できる場所が必要なことや外国人をバックアップする体制づくりについて提言している。協会の皆さまは貴重な人材であるため、もっと人材が増えていくとよいと思う。

協会：日本語サポート支援の中で相談にのっているが、日常会話をすることや書類文面を読むとなると一生懸命に勉強をしても5～6年はかかると思う。働いている外国人は仕事の合間に勉強しているが、とても時間がかかる状況なので、通訳のマンパワーや通訳機器やアプリを活用できるようなシステム作りをお願いしたい。診察のため自分が信頼できる通訳者の確保も容易ではなく、また予約するのにも時間がかかる。日本語が話せる日系の方が休日に通訳をすることもある。外国人が日常的に病院に通える体制を作って欲しい。

委員：過去に理事長のお母様が同じ立場でやられていたことを知っており、お話を伺った事があるが強いやる気を感じた。お母様は外国語も話せたが理由を尋ねたら、外国語を覚えることはとても楽しいと答えられ大変感心した。やる気にさせる、交流したくなる背景を作ることがこの協会の役目だと思う。交流に携わる方を見て市民の方がその気になるような協会にして欲しい。

協会：外国人労働者の中には長時間勤務する方もおり、労働の合間に勉強することは大変。日本で働くにはある程度の覚悟が必要と思う。

協会：多文化共生には外国人も日本人もお互いに覚悟が必要だと思う。運営費よりも、人材が欲しい。研修に新しく5人の方に参加頂いたが現場では1人しか活動できていない。退職された学校の先生がやはり教えるのが上手いので議会からの人材確保に向け提案して欲しい。ブラジル人は根が明るいので交流しやすいと思っている。

**【質問】**

Q. 委員：課題に対する整理が必要だと思うが、道筋のロードマップのようなものはあるのか。

A. 協会：課題については組織力アップ検討会を開き検討し、課題をまとめて整理した。新規事業については多文化共生プランに沿って表に表した。

**【意見】**

協会：外国人の方の困りごとや課題解決に向け活動をしているが、日本人の寄り添う意識向上も並行して必要だと思うので、今後地域と一緒に取り組めるといいと思う。

協会：とにかくマンパワーが必要に思う。学生の関わりも広めていきたい。

協会：評議員メンバーは幅広く充実していると感じている。本市の国際交流基金についてもご理解をいただきたい。今後も国際交流協会についてはいつでもご意見をお願いしたい。

令和3年6月 7日 越前市議会議長 様

総務委員会 委員長 小形 善信